

市 町村合併不調に 終わる

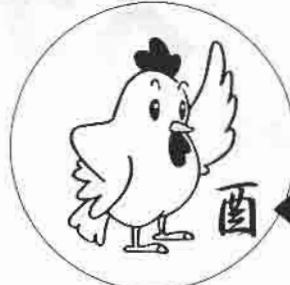
紋別市、雄武町、興部町、滝上町、西興部村の5市町村は「西紋別地区市町村合併調査研究会」を設置し、合併に向け検討してきましたが、4町村は自立の道を選択し平成16年3月29日の研究会で解散が決まりました。この決定により平成17年3月までの合併特例法に基く合併の可能性はなくなりました。



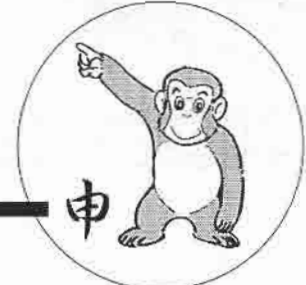
⊗ 紋別市

平成16年

10大ニュース



2005年



2004年

オ ホーツク DOいなか博開幕

遠紋12市町村が一つになり、地域それぞれの特色や魅力を道内外に広く発信すべく「オホーツク DOいなか博」が5月1日、海洋公園に5,000人を越える人を集め、華々しく開幕しました。旬鮮まつりを皮切りに豪華客船の寄港など様々なイベントに大勢の方が訪れました。



暴 風雪が紋別を襲う

1月14日から16日にかけて紋別地方は100年に一度とも言われる猛吹雪に襲われました。市内全域で臨時休校となり、道路の除雪も追いつかず、交通機関が完全に麻痺し市民の生活に多大な影響をおよぼしました。



紋 別市制50周年を 祝う

紋別市の市制50周年を記念する式典が8月1日、市民会館で行われました。海外の姉妹都市などから来賓の方々を迎え、盛大かつ厳粛な雰囲気の中で、先人の偉業に感謝し未来への飛躍を誓いました。



式典では、赤井邦男市長が「市制50周年の意義は、過去の歩みを振り返るのではなく、未来を担う子供たちのため、今日までの歩みをどう活かしていくかにあると思います。」と式辞を述べ佐藤留次紋別市議会議長が「心豊かで活力あるオホーツク圏の中核都市を目指し、市民が一丸となって、力強く前進いたします。」と決意表明を行い式典の幕を閉じました。

秋 篠宮様ご一家来紋

第19回北方圏国際シンポジウムが2月22日から開催されました。市内外や海外から科学者が参加し活発な意見交換がなされました。

最終日の28日には、「生き物文化誌学会」常任理事としてご活躍されている秋篠宮文仁殿下のご臨席を賜り、アザラシ分科会が開かれました。

また、秋篠宮様ご一家は、市立博物館、ごまちゃんランドなどの施設をご視察なされました。



姉 妹都市 親善訪問団来紋

市制50周年にあわせてロシア連邦サハリン州コルサコフ市からの市職員6名は安養園、紋別中などを視察。また、アメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクス市からのアラスカ大学の学生5人はホームステイで紋別を満喫しました。今回の来紋では手づくり市民ガーデンにサクラの苗を記念植樹しました。



道 都大学撤退を表明

道都大の社会福祉学部が平成16年度末で撤退し、平成17年度から北広島市に移転することになりました。昭和53年に日本最北の4年生大学として開学以来27年間、紋別市と共に歩んできました。市も財政支援を行いました。少子化や大学間の競争の激化には勝てませんでした。



猛 暑が続いた紋別

近年、冷夏に見舞われた紋別地方でしたが、昨年はどうってかわって猛暑が続きました。

25度を越える夏日は7月8月で18日、その内30度を超える真夏日は7日を数えました。記録的な暑さが続き、渚滑川は過去10年間で最低の水位となり、「このままでは、干ばつ被害もでるのでは」との声も聞かれました。

この暑さのため市内電器店では、冷房機器を買い求める市民が殺到し、店頭からは扇風機の姿が消えるほどでした。



流 氷とガリンコ号 北海道遺産に登録される

次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産を、北海道民全体の宝物とするのが「北海道遺産」です。

流水砕氷船を「ガリンコ号」と命名して流水観光に結びつけたこと、オホーツクタワーでの流水観測や北方圏国際シンポジウム開催など流水の大切さを訴えてきたことが評価され10月22日に「流水とガリンコ号」が選定されました。



台 風18号直撃

9月8日紋別市を通過した台風18号は観測史上最大となる最大瞬間風速40メートルを記録しました。このため、東京便は発着便とも欠航。市内小中学校の大半は正午で授業を終え臨時休校措置を取りました。

また農家では、ビニールハウスがほぼ全壊状態になり停電で乳牛の搾乳ができないなどの被害がでました。

この台風は、木をなぎ倒し、トタン屋根をはがし、物置などの全壊と大きな爪あとを残しました。

